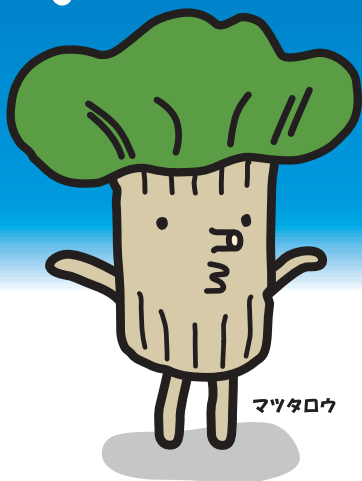


KIZUNA レポート

第89期 中間期

2018年4月1日～9月30日

つなぐを
化学する



荒川化学工業株式会社



株主の皆様へ

代表取締役社長

宇根 高司

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第89期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の世界経済は、米国を中心に緩やかな回復傾向が継続しました。一方、国内経済は、堅調な雇用情勢を受けた個人消費の回復などによる企業収益の改善や設備投資の増加を背景に緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米中をはじめとする貿易摩擦の深刻化や原油価格の上昇により、経済の先行きは、不透明感が増している状況にあります。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2016年度よりスタートしました第4次中期5ヵ年経営計画の方針（「事業の新陳代謝」や「真のグローバル化」など）に沿った重点施策を進め、事業拡大や事業開発の促進に注力してまいりました。業績面では、電子材料関連の事業が堅調であった

ものの、2017年12月1日に発生しました富士工場爆発・火災事故により、出版等の印刷インキ用樹脂、製紙用薬品などに影響がありました。また、中国の環境規制強化等に伴う原材料価格の高騰も収益に大きく影響しました。

その結果、当中間期の売上高は395億1百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は18億96百万円（同28.8%減）、経常利益は22億16百万円（同22.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14億25百万円（同30.9%減）となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、1株につき20円とさせていただきます。

2016年度にスタートしました第4次中期5ヵ年経営計画は、ちょうど中間地点を迎えました。原材料を含む諸コストの上昇や富士工場事故の影響が見込まれ、また、中国での環境規制の強化など懸念要因もありますが、本中期経営計画の重点施策である水素化石油樹脂の共同事業化につきましては、本年2月に設立した千葉アルコン製造株式会社は着工に向けて詳細な設計に入っており、掲げた目標に向かって着実に進めております。安全を最優先に、国内外の生産・販売拠点および関係会社の整備と拡充をはかるとともに、新たな事業の柱となる新規事業開発や更なるグローバル化を推進し、全社“1”丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第4次中期5ヵ年経営計画（2016～2020年度）

Dramatic SHIFT 1

永続的な成長のため、劇的な経営資源の再配置や最適化により、事業の変革を実現し、全社“1”丸となって真のグローバル化を目指す。

基本方針と3つの重点項目

SHIFT 実現体制の構築と事業の新陳代謝の実践

1

SHIFT 実現体制の構築

2

事業の新陳代謝の実践

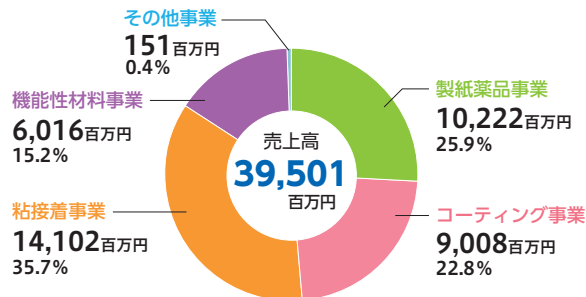
3

真のグローバル化とガバナンス体制強化

経営目標（連結）

	2017 年度 （前期）	2018年度 （予想）	2020 年度 （目標）
売上高	807 億円	815 億円	1,000 億円
営業利益	48 億円	40 億円	58 億円
経常利益	52 億円	44 億円	60 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	31 億円	40 億円	37 億円

事業の概況



製紙薬品事業

製紙薬品業界は、eコマース市場(電子商取引)の世界的な成長に伴い、段ボール原紙など板紙の需要が好調に推移しています。このような環境のもと、当事業におきましては、板紙向け紙力増強剤の需要が増加しましたが、原材料価格の高騰による収益性の大幅な悪化や富士工場事故の影響もあり、売上高は102億22百万円(前年同期比3.3%増)、セグメント利益は1億66百万円(同71.8%減)となりました。

コーティング事業

電機・精密機器関連業界に支えられた電子部品・デバイスが堅調である一方、印刷インキ業界では出版・広告分野で市場の縮小が続いております。このような環境のもと、当事業におきましては、機能性コーティング材料用の光硬化型および熱硬化型樹脂の収益への寄与や、海外では食品包装向け印刷インキ用樹脂の販売増があったものの、国内の印刷インキ用樹脂は、富士工場事故により生産能力が減少した影響もあり、大幅に販売減となりました。

その結果、売上高は90億8百万円(前年同期比4.6%減)、セグメント利益は5億3百万円(同4.3%減)となりました。

粘接着事業

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要増加が継続しております。このような環境のもと、当事業におきましては、水素化石油樹脂は、生産拠点を置くドイツのコンビナート停止に伴う一時的な稼働率ダウンによる販売減や原材料価格上昇などによる収益性の低下がありました。一方、アジア地域を中心にロジック系の粘着・接着剤用樹脂の販売は堅調に推移しました。

その結果、売上高は141億2百万円(前年同期比3.9%減)、セグメント利益は11億32百万円(同21.3%減)となりました。

機能性材料事業

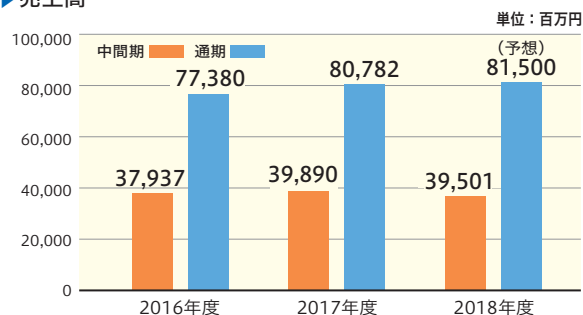
電子工業業界は、自動車分野やAI、IoTの普及に加え、新型スマートフォン発売もあり、半導体や高機能デバイスの需要が好調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、ファインケミカル製品が好調に推移するとともに、洗浄用途の広がりもあり、精密部品洗浄剤が堅調に推移しました。また、第4次中計における「みつける」「そでてる」の促進に注力する中、次世代通信技術「5G」に対応する低誘電ポリイミド樹脂の実績化が進みました。

その結果、売上高は60億16百万円(前年同期比5.0%増)、セグメント利益は4億11百万円(同43.1%増)となりました。

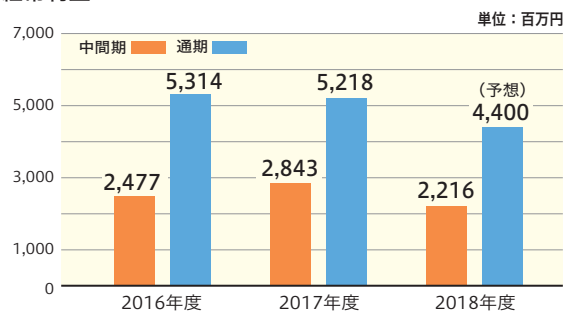
決算ハイライト(連結)

	前中間期	当中間期
売上高	39,890 百万円	39,501 百万円
営業利益	2,662 百万円	1,896 百万円
経常利益	2,843 百万円	2,216 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,063 百万円	1,425 百万円

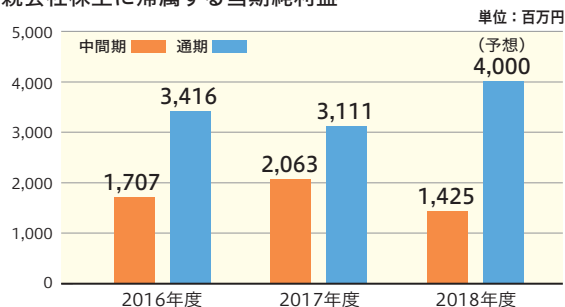
▶売上高



▶経常利益



▶親会社株主に帰属する当期純利益



“TOPICS”

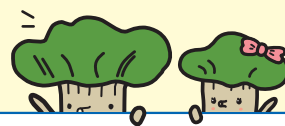
化学の魅力を 伝えたい!



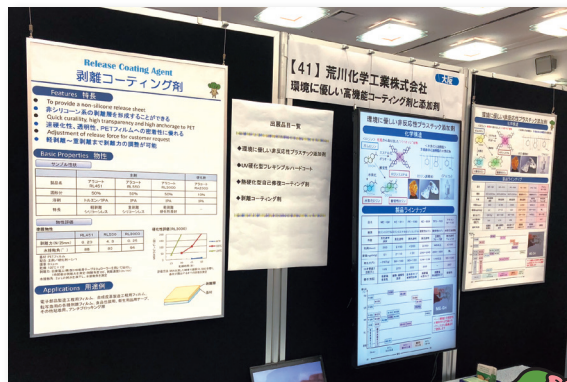
10月20日と21日、神戸国際展示場において小学生を対象とした日本最大級の化学の祭典「化学の日子ども化学実験ショー」が開催され、当社も出展いたしました。当社ブースでは、松ぼっくりや製紙用薬品を使った実験をおこない、子どもたちの笑顔をたくさん見せて頂きました。



環境改善に 技術で挑む!



8月22日と23日、大阪産業創造館において「機能性フィルム展2018」が開催され、当社は「環境に優しい高機能コーティング剤と添加剤」をテーマに、プラスチック添加剤、自己修復コーティング剤、フレキシブルハードコート、ノンシリコーン剥離剤について出展いたしました。実演ビデオとデジタルサイネージを使い多くのパネルを切り替えながら展示し、大勢の方にご来場頂きました。



荒川化学グループは、平成30年7月豪雨で被災された皆様への支援、被災地の復旧にお役立ていただくべく、岡山県倉敷市および「マツタロウの森」がある岡山県矢掛町に義援金1,000万円を拠出いたしました。

会社概要 (2018年9月末時点)

商号	荒川化学工業株式会社
所在地	大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代表者	取締役社長 宇根 高司
創業	明治9年(1876年)
会社設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	33億43百万円
従業員数	1,515名(連結)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
公告方法	日本経済新聞		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の			
口座管理機関			
同連絡先	大阪府中央区伏見町3丁目6番3号		
(お問い合わせ先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部		
	電話 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。